



協力隊に参加して見つけた夢。 コーヒーを介してホンジュラスと故郷をつなぐ

今井 英里さん カトラッチャ珈琲焙煎所 代表
Eri Imai

中南米・ホンジュラスのラパス県の小学校で算数を教えた。貧困と犯罪がうずまいているところと覚悟していたが、街には温かく親切な人たちが暮らしていた。心をとらえたのは学校に通うこともできない子どもたち。「貧困問題を改善したい」と帰国後、ホンジュラスの生産農家からコーヒー豆を輸入し、焙煎販売する店舗を故郷に立ち上げた。

気になったのは 学校に通えない子どもたち

大学の教育学部で教師を目指していた。海外協力隊へ応募する動機は、「教師として視野を広げ、スキルアップするため」だった。

配属されたのは児童約500人の小学校。目的は児童や教師に算数を教えることだった。しかし、ベテラン教師たちは母親ほどの年齢。「教育実習のために来たのか?」と言われた。児童の算数力は日本と比較して明らかに低い。教え方もバラバラだった。

そこでベテラン教師のリーダーと一緒に、やる気のある教師を集めて算数を教える勉強会を開いた。

計算力をあげるため、反復して覚えていくドリル学習を導入すると、児童の計算力はみるみる向上、計算力を競うイベント「算数オリンピック」へと発展した。

学校で教師や児童と奮闘する日々。誕生日には児童や教師など300人から抱きしめられるほど祝福され、最高に幸せだった。その一方で学校に通えない子どもたちが気になっていた。

3年生くらいになると学校を休み、貧困から家族を救うため家政婦をしている子がいた。学校へ行くことができず、空き缶や粗大ゴミを拾って売っている子も多くいた。何もできず、もどかしくてたまらなくなった。



一杯のコーヒーから見えた 目標と夢。コーヒービジネスで 子供たちを救いたい

そんなある日、街中のカフェで飲んだ一杯のコーヒーが人生を大きく変えていく。

もともとコーヒーは苦手だったが、あまりのおいしさに感動した。それは、ホンジュラス産コーヒーで、店の



カウンターで客の嗜好を聞いたうえで豆を選び、挽いて入れる



根気よく一つ一つの豆をより分ける



カウンター(写真手前)には生産農家の顔やメッセージが置かれている

オーナーはナンシー・エルナンデスという女性。ホンジュラス産コーヒーは日本ではほとんど知られていないが、世界的には高く評価されている。

ナンシーさんは、コーヒー豆の国際的な品評会でも審査員を務めるホンジュラスコーヒーのキーパーソンだった。ホンジュラスのコーヒー園の多くは家族経営で規模は小さい。貧困家庭で育ったナンシーさんは、そんな小さな農園に栽培方法を指導し、質の高い豆を直売していた。

「日本でこのコーヒーを直売すればホンジュラスの経済に還元できるのでは」と閃いた。

帰国後、ホンジュラスへ戻り コーヒー修行。コーヒービジネスで 日本とつなげたい。

衛生環境の悪さから風土病のデング熱にかかるなど、慣れない環境に苦労したが、帰国後ほどなくして、ホンジュラスへ帰りたくてたまらなくなった。

「明るくておせっかいな人たちが暮らすホンジュラスとつながり続けたい」。

その一心をエネルギー源にホンジュラスコーヒーを輸入直売する事業に着手するため、準備を始めた。

愛媛県内のコーヒー専門店では修業する一方、輸入も一から学ぶ。ホンジュラスを再訪問し、ナンシーさんのもとでも修行した。そして、帰国から4年目となる2019年、「カトラッチャ珈琲焙煎所」を大洲市の酒店「酒乃さわだ」内に出店。同店は2018年の西日本豪雨災害で水没した。泥を掻き出すボランティアで同店に通い続けたことが、出店へのきっかけとなった。

カトラッチャ珈琲焙煎所のカウンターには生産農家9人の顔写真や紹介文、メッセージが張り付けられている。ナンシーさんのメッセージには「お金を儲けるよりも困っている人の役に立ちたい」と綴られていた。育てた人と飲む人。同店の香り高いコーヒーを介して日本とホンジュラスがつながっている。

2020年にはコロナ禍で販売量が減り、困っている農園の生産向上に役立てたいとクラウドファンディングを行い、コーヒー豆の乾燥設備などを贈った。

今井 英里さん プロフィール

愛媛県出身。愛媛大学教育学部卒業後、青年海外協力隊としてホンジュラスへ赴任。そこで貧困にあえぐ子どもたちの助けになりたいとコーヒービジネスに携わることを決意。帰国後はJICA愛媛県国際協力推進員を経て、愛媛県大洲市で同国産コーヒーの輸入、販売をする店舗を開店。

リターン商品はコーヒーと焼酎を使ったリキュール「コーヒースペシャルティ」。福岡県の焼酎メーカー「天盃」の多田格社長が「ホンジュラスからのSOSを何とかしたい」と共感し、醸造したものという。

日本人の気持ちとお金^{ひじかわ}がホンジュラスの生産農家を励ましている。海外協力隊での経験、そして出会いが私の生き方を導き、人と人のつながりは着実に広がっている。

ゆったりと蛇行する^{ひじかわ}脇川沿いの店舗には、ホンジュラス産コーヒーを求めて客が立ち寄る。豆の販売だけでなく、客の嗜好を尋ねて豆を選び、手際よく丁寧にコーヒーを淹れる。ホンジュラス産コーヒーと暮らす幸せが広がっている。

今井さんへの エール!

てんはい
株式会社 天盃
社長
いたる
多田 格 さん



生産者の熱い想い、届けて

今井さんとの最初の出会いは、出張で愛媛にある「酒乃さわだ」さんを訪れたときでした。初めてホンジュラスの珈琲を口にしたときの衝撃は今でも忘れません。珈琲豆の果実感、迫力。今、思えばそれは今井さんの想いや生産者たちの情熱なのだ。昨年のコロナ禍、クラウドファンディングで「コーヒースペシャルティ」が誕生しました。私も焼酎を造る職人。生産者たちの想いが詰まったリキュール造りに携われたこと、今井さんに出会えたことに感謝の念が絶えません。今井さんありがとう!